

2022交渉ニュース

1号

交渉内容

総務部長ボーナス0.1月分引き上げを提案！

11月4日(金)県庁本館8階で県公労(県職労、企業局労組、県教組、高教組)による総務部長交渉が始まりました。はじめに村枝議長が「熊本地震、コロナウイルス対策、豪雨災害など厳しい状況が続いている。過労死ラインを超えて働いている職員がたくさんいる。誠意ある回答をお願いしたい。」とあいさつしました。その後、当局からの回答がありました。また、当局からは人事委員会勧告通り、給料については若年層に対して改定。ボーナスは0.1月分引き上げ(再任用は0.05月分)。また、再任用職員の調整基本額の導入。という提案もありました。その後、約2時間半に及ぶ交渉を行い、次回までに前進ある回答を議長が求めて終了しました。次回は11月17日(木)です。



平井総務部長

第1回 総務部長 交渉



村枝議長

県教組交渉団からの声 ●欠員補充のない中、一度に7名も出張の日があった。子どもを置いたままの研修はやめてほしい。 ●欠員5名の中、週35コマの人がいる。 ●再任用で教務主任、途中から学級担任にもなり脳疾患で倒れた人がいる。何とかしてほしい。 ●日本語指導の人員が不足している。 ●在校等時間の縮減ばかりが目的化し業務削減の話し合いができていない。 ●経営訪問でたった2分の参観に略案を求められる。 ●親の介護負担で体をこわした人がいる。親の看護休暇を認めてほしい。 ●退職勧奨を復活してほしい。 ●仕事は同じなのに再任用になると給料が減るのは納得いかない。 ●定年延長についての説明が不足している。 ●パワハラが継続している学校がある。 ●臨採が55歳で昇給停止になるのはやめてほしい。 ●欠員が続いている。臨採を確保するためにも処遇改善してほしい。



今後の交渉予定

11月16日 第1回県教委交渉

11月17日 第2回総務部長交渉

11月30日 第2回県教委交渉